

いずもぎき

議会だより

第77号

2012
平成24年10月22日



良寛堂建立90周年
書道パフォーマンス

9月定例会

もくじ

○ 平成23年度決算認定	2
○ 9月定例会	4
○ 一般質問（4人が町政をたぐす）	6
○ 町民の声「未来永劫」	10

決 算 認 定

万円 総額 58億6831万円 (前年比 3億1478万円増)
万円 総額 55億5683万円 (前年比 2億1296万円増)

一般会計

放射線測定器(大・小各1台)
69万円



小・中学校などで線量を計測(大型器)

一般会計

23年道路災害
復旧工事
2796万円



7月の豪雨災害など(常楽寺地内)

一般会計

若者向け町営住宅
石井町3棟分
5627万円



若者定住促進

一般会計

汐風ドリー夢カーニバル、きずな、
ストリートジャズの補助金
1068万円



イベント風景

平成23年度

一般会計並びに特別8会計の決算は

歳入 一般会計 38億8004万円 特別会計 19億8826万円

歳出 一般会計 37億 254万円 特別会計 18億5429万円

注目された事業・重点事業は

一般会計

中学校校舎棟トイレ
改修工事

4410万円



新しくなった中学校のトイレ

一般会計

中央公民館外壁・屋上
改修工事

4069万円



きれいになった外壁

特別会計

簡水取水井整備工事
新規井戸掘 6カ所

2188万円



安定した飲み水の確保(大釜谷地内)

特別会計

国保CKD関連事業
尿生化学検査など

83万円



慢性腎臓病対策

議会報告3件、平成23年度一般会計・特別会計決算、平成24年度一般会計・特別会計補正予算、条例制定、人事案件など議案18件が提出され、慎重審議の結果、原案のとおり可決・認定・同意しました。なお、陳情1件を採択し、意見書1件を可決しました。

可決した条例改正など（主なもの）

◆良寛記念館管理運営条例制定

・（財）良寛記念館の町移管に伴うもの

◆町廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部改正

・平成25年7月から実施される燃やすごみの中から生ごみを分別収集することに伴うもの

陳情

陳情第4号

採択に決定

「私立高校生が学費を心配せず学べるように、私学助成の増額・拡充を求める意見書」の採択に関する陳情

可決した意見書

◆私立高校生が学費を心配せず学べるように、私学

助成の増額・拡充を求める意見書

提出先

衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣
文部科学大臣・財務大臣・総務大臣
新潟県知事

人事案件

平成24年10月27日から4年間

教育委員会委員の任命に同意

村越隆夫（住吉町）

内山才子（吉水）

議会のつどひき（主なもの）

（平成24年7月～9月）

7・6 議会報特別委員会

（議会だより76号）

13 議会報特別委員会

（議会だより76号）

25 長野県生坂村議会行政視察来町

第6回全員協議会

8・10 柳津霊まつり・花火大会

（福島県柳津町）

23 第7回全員協議会

町村議会議員研修会（新潟市）

刈羽村・出雲崎町議会議員懇談会

9・4 議会運営委員会

議会運営委員会

9月定例会召集日

予算審査特別委員会

決算審査特別委員会

社会産業常任委員会

総務文教常任委員会

定例会2日目（一般質問）

議会報特別委員会

（議会だより77号）

21 議会運営委員会

定例会最終日

第8回全員協議会

議会報特別委員会

（議会だより77号）

9月定例会

(会期 9月12日～21日 10日間)

平成24年度一般会計補正予算 (第2号)

補正額 3600万円

補正後の予算総額 33億3692万円



一般質問での傍聴者

主な歳出

- ・自治体クラウド関連事業[※]…… 1,013万円
- ・町道維持修繕工事…………… 952万円
- ・山谷小釜谷線改良舗装工事…… 600万円
- ・天領の里デッキ補修工事 …… 95万円
- ・埋蔵文化財試掘調査…………… 40万円

※クラウド(クラウドコンピューティング)

データなどを自分自身で保有・保管せず、インターネットの向こう側にデータを保存するなどのサービスを利用する使い方

特別会計

国民健康保険事業補正予算 (第1号)

補正額

932万円

補正後の予算総額

5億9832万円

介護保険事業補正予算 (第1号)

1060万円

7億1710万円

全員協議会

主な質疑について報告します。

第6回 7月26日開催

◎生ごみの分別収集について

町民課長 長岡市のバイオガス化処理施設が来年3月完成、7月から開始の予定です。

議員 バイオマスの関係から進めざるを得ないが、分別が複雑化するため、高齢者など負担が大きいの。負担が軽減できるような今後、検討していただきたい。

第7回 8月23日開催

◎消防団の出動基準について

議員 火災の大小、また鎮火近くでも全分団出動の放送があるが、出動命令の基準を聞かせてください。

総務課長 今の消防団の構成をみると、平日の昼間だとなかなか団員の集まりが難しい状態、結果として全分団出動となっています。

◎交通事故防止について

総務課長 交通事故が多発しています。町では、のぼり旗の設置、防災無線での広報、交通指導員の

第8回 9月21日開催

◎津波防災訓練について

総務課長 11月11日、日曜日に実施する予定です。

議員 自主防災会との連携や要援護者の避難方法、また、日曜日実施だと保育園、郵便局など参加できないなどの問題はどうか考えますか。

総務課長 要援護者の避難については集落、自主防災会に支援者の登録をお願いしています。曜日等については、来年度以降考えます。

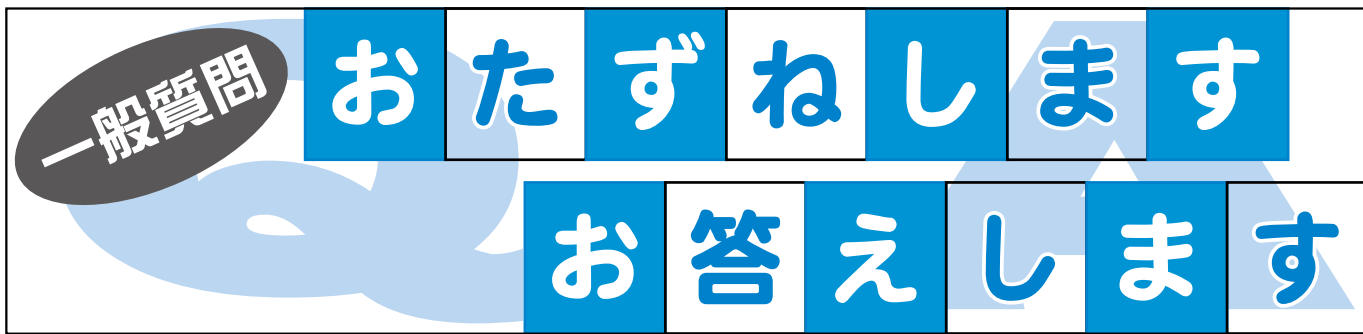
◎火災時の池、養魚池の用水利用協定について

議員 防火水槽の整備が進んでいるが、自然水利(池など)の利用を考えるべき。中山の火災時も養魚池から放水しました。事前に所有者の方と使用の協定を結ぶべきだと思います。

総務課長 ため池など、所有者の方と利用について、今後折衝してまいります。

巡回をお願いします。

議員 一時停止線が消えたり、不鮮明な所があるが、事故防止からも早急に整備をしてもらいたい。



今後町は、柏崎刈羽原発と どう関わっていくのか



諸橋和史
議員

質問 福島原発では大変な事態になっています。今後町は柏崎刈羽原発とどうかかわっていきますか。五千町民の生命、財産を守るのは、町長、行政の務めであり、私たち議員も協力していかなくてはなりません。柏崎刈羽原発は再稼働を目指している世界一の原発です。燃料プールも数年でいっぱいになり、国は使用済核燃料は再利用しない方針。2030年には原発ゼロを目指し新設はしないとのことです。しかし出雲崎は、原発から20km圏内です。町民をどう守っていくのか町長の考えを伺います。

答弁 現在、国は原発ゼロ、既存原発の運転は40年としていきます。核燃料の最終処理問題や方針も変わってきて原発の安全神話は崩れています。代替エネルギーの問題等で、安全が確保されるまで再稼働は認めません。

質問 私は再稼働を行うのであれば、5千人のシエルター

を作ってもらう、あるいは、現在町に交付されている交付金の上乗せなどを要望してもよいのではないかと思います。

答弁 シエルターについては膨大なお金もかかると思いますが、安全対策に対し国がある程度町村へ与えること、あわせて、避難に対する体制づくりもこれからの課題と思えます。

質問 産業全般において衰退を感じます。自営業者の高齢化・所得の低さなどがあり、今後町は、未利用地等を利用して、企業誘致などができませんか。町長の考えを伺います。

答弁 大変な時代を迎えています。自助努力、自律的新企画に挑戦するというものが大事と思っています。農業後継者育成で国・県に要望していきたいと思えます。出雲崎は農地453ha、耕作放棄地70haのなかで、私は453haの農地を守りたい。後継者育成と未

産業について

す。議会、町民、一緒になって対応していきたいと思えます。

整備地の基盤整備を進めたいと思えます。現在の経済状況からして、出雲崎に企業誘致は非常に難しいと考えます。

質問 出雲崎にも若者が多くいます。若い世代が自分の考えを発想した時に町として要望や手助けをする考えはありますか。

答弁 かつて町おこし100人委員会というものをつくった経緯もあり、議員の皆さんと、はかりながら、若者塾というようなものを立ち上げたいと、前向きに考えていきます。



柏崎刈羽原発視察



人口増に戦略部門設置を

三輪 正 議員

質問 昨年12月議会の一般質問において人口減対策として「人口増加対策委員会」立ち上げの要望をいたしました。

町も各種対策を実施しておりますが、十分な効果は上がっておりません。このことについて、町長の考えを伺います。

原因は大きく二つ

答弁 人口減少の要因の一つめは少子高齢化です。平成2年から22年までの20年間で約1,500人の減少、年平均70人の減少です。23年は58人の減少でした。これは、宅地造成などにより社会動態が増加し、全体の減少を少なくしたためと考えられます。

二つめは各人の意識の変化により「家を継ぐ」という考えより教育を受けて、自分の好きな道、住所を選ぶ傾向が強くなったと考えられます。

質問 6月議会で議員から婚

活に支援すべきとの質問に町長は前向きな答弁をされましたがその後の状況について伺います。

婚活は保健福祉課中心に

答弁 担当課を中心に検討し、予算措置の意見もありましたが、難しい問題もあり、十分考えていきたい。皆さんからもアイデアを聞かせていただき、効果的方法を考えたい。

質問 石井町の若者向住宅の状況と今後の計画、また空き家・空き地バンクの状況について伺います。

若者向住宅は効果大

答弁 若者誘導型住宅3棟には3組の夫婦とあわせて7人のお子さんが入居され、みこしなどにも参加されています。建設中の1棟にも夫婦と2人のお子さんが入居されます。間もなく山谷住宅団地も

完成し、来年度売出しの計画です。

平成8年設置の空き家・空き地バンクの利用状況は現在までの登録申請は空き家8件、空き地3件で空き家5件が成立しております。

質問 各種対策によって効果が上がっておりますが、より効果を高めるため、町の中に中核となる組織、部門をつくり、子育て、婚活、住宅などを総合的に検討し、「5年、10年後のビジョン」を作り、実施することが必要と考えま

すが、町長の考えを伺います。

各課横断的な形で進める

答弁 行政コストの面から新たな組織は作りません。一つの事業について各課の横断的な形で、問題をより深めて結果を求める方向で進んでいます。

67人の町職員が自分の仕事以外に、関係係する事業にも目配り気配りしながら、総合的に進めることが大事と考えております。



子どもたちの笑顔

良寛記念館の町移管に伴う 今後の活性化策は



仙海直樹
議員

質問 平成25年1月1日より良寛記念館の町移管に伴い、今後の運営には税金が充てられるものと考えられますが、入館者の増加や活性化策をどう考えていますか。

企画展や優遇制度を検討

答弁 良寛さまは出雲崎の宝であり、町民の皆さんから、関心を持って頂くような企画展や町民優遇制度を、検討していきたいと思えます。

質問 観光協会の取り組みとして期間限定ではありますが、記念館の割引券等を発行していますが、今後の継続や通年化について伺います。

答弁 地域を挙げて一体となり協力してやっていくことは必要で、町内外に積極的にアピールしていきます。継続性や通年化も必要と考えます。

質問 当町に他の自治体が行った政視察にいられた際には、記念館の見学をすすめるべきと考えますがいかがですか。

答弁 町が行う以上、その方

向で検討したいと思えます。

町の応援団を募集する制度は

質問 出雲崎町に関心や興味のある方を募集し登録。年会費を頂く代わりに、イベントの案内やクーポン券などを送り、町の応援団を募集するよ

新しい発想を持って

答弁 以前似たような事業として、商工会と一緒にを行いました。会員数の減少など5〜6年で終了した経緯もあ

ピロリ菌対策に公費助成を

質問 ピロリ菌は、胃がんや胃潰瘍の原因ともいわれ、胃の内部に存在し、胃がんを発症した9割以上の方がこの菌に感染しています。

さらに50歳以上の方の5割が既にこの菌に感染しているといわれています。

国際がん研究機関ではこの



町に移管される良寛記念館

答弁 ピロリ菌感染者は全国で約6千万人いるといわれていますが、その胃がんの発症率は比較的低いため、今後は科学的根拠を基に、国の検討結果などを踏まえて、対応していきたいと考えています。

ブラチナ検診で取り入れては

ります。時代もかわってきているので、新しい発想を持って、徐々に取り組んでいきたいと思えます。

質問 町の特定検診の中で、全員にピロリ菌の検査をし、除菌となると多くの費用が掛るため、年齢を節目で区切るプラチナ検診の形で、取り入れる事はできないのか伺います。

国や県の方向性を見ながら検討

菌を胃がんの危険因子と定め除去を推奨しているところであり、この検査、除去に係る費用は保険適用外で全額自己負担です。

胃がん対策前の予防策として、ピロリ菌除去に伴う費用を公費助成できないものか伺います。

答弁 検査に約5千円、除去に約1万円かかるために、基本的には自らで生活習慣などの健康管理を行い、がん予防に、努めていただきたいと思えます。今後は国や県の方向性を見ながら検討していきます。



田中元 議員

潜在資源の活用は

質問 当町には、歴史・文化遺産、自然があります。地下資源として、鉱泉・天然ガスもあります。また、当町では3つの温泉が県に登録されています。勝見ではすでに営業されており、その他は、稲川、立石で登録されています。

この資源を生かし、人口増加につながる施設などの施策の検討の考えはありますか。また、旧JA跡地による駅前の活性化にもつながると考えますがいかがですか。

運用する考えはない

答弁 地域固有の資源、地域を発展させる潜在的な力になり、地域経済を発展させる上でも極めて重要な戦略であるとは考えます。ふるさと創生事業で、日帰りの温泉などの施設が、他の市町村ではたくさんできています。しかし、施設が赤字で経営が成り立た

ず、存続すると自治体の財政負担が大きくなるため、廃止すべく進めています。

地下資源を活用して、町民の憩いの場、健康保持、雇用の場も必要でありますが、投資に対する還元が求められ、施設を作ればいいという時代は終わりました。民間の経営感覚でやっていただくのが、ベストであり、町が地下資源を使い運用する考えはありません。

ふれあいの里

入浴客増加に

質問 ふれあいの里の入浴施設は、水道水を沸かしていません。利用した方の話だと塩素の臭いが強すぎるとのことです。そこでこの鉱泉を使えないかという話になった時は、当初の設備が対応されなくて、ポンプや機械などの損傷が激しくなるかもしれないので使えないとの答えだった

そうです。入浴客が右肩下がりの状況の中で、鉱泉水を使い温泉場として運営すれば入浴客も増え、地域の活性化に繋がると思いますが、いかがですか。

手を出すべき

ではない

答弁 例えば寺泊では、佐渡の海洋深層水を沸かして人気があります。そういう意味で

の、活用方法は、新たな観点で考える必要はありますが、くみ上げる施設や運搬方法、希望する施設があるのかも、しんしゃくしなければなりません。民間の方から自力で開拓していただき町がサポートすることは、考えられますが、町が乗り出して源泉をくみ上げて施設に配るといふのは、手を出すべきではないと考えます。



この資源の活用は（立石地内）

町民の声

未来永劫



勝見 伊藤 敏信



旧出小通学路階段

最近、晴れた休日になると娘からサイクリングの誘いを受けます。長女と次女を連れ出雲崎探索サイクリングの開始です。勝見を出発し、尼瀬から旧道に入り普段なら素通りするようなところで立ちどまり、「この奥に神社があるんだよ」「この細い道は海に抜けるんだよ」などと言いながら進みます。旧出小の通学階段を登りながら「昔パパは、この階段を毎日登ってこの上の小学校に通ったんだよ」と少し自慢げに話します。

この子たちが将来進学や、就職した時に、出会う人たちに「私の生まれた出雲崎はこんなところですよ」と自信を持って話してもらいたい。そして自慢出来る出雲崎が、いつまでも素敵な姿で在り続けて欲しいと願います。

それは、子を想う親の心と一緒にです。

表紙の小話



良寛堂建立90周年記念式典が9月16日、町民体育館で行われました。

良寛堂は大正11年(1922)9月16日、良寛の生家、橋屋跡に故佐藤耐雪翁の尽力によって建立されました。

午後から行われた「書道パフォーマンス」では、東京学館新潟高校書道部22人が、音楽と踊りに合わせて縦4尺横7尺の大きな布2枚に、良寛の詩などを力強く書きました。

前部長であり、議会だよりの題字も書かれた、町内川西から通う3年生の南波秋海さんも中心メンバーとして参加されました。

(表紙の写真中央) (三輪 正)

編集後記

決算認定が中心の9月議会も終わり、秋分の日とともに、夏の暑さから秋に突入し、夜原稿を書いていると肌寒さも感じます。議会では、今年で3回目になる出まえ議会の準備と、議会改革で忙しい日が続きます。町民に開かれた議会、参加してもらおう議会を目指して努力しております。

議会だよりの発行日には、出まえ議会は終わっています。これからも議会に対して、町民の皆様方の多数の参加をお願いし、建設的なご意見、また、ご指導をお願い致します。

(田中 元)

議会だより

発行予定

発行は年4回。発行日は4月20日・7月20日・10月20日・1月20日です。議会の傍聴にぜひおいでください。